

果樹DGsプロジェクト ～くだものでつなげる命の輪～

【活動グループの紹介】

長野県上伊那農業高等学校は、今年で開校131年目を迎える歴史と伝統のある農業高校です。4学科8コースの生徒が、緑あふれる学園の中で生徒たちが伸び伸びと学習活動に励んでいます。

果樹グループの有志20名で活動しており、プルーン、リンゴ、シャインマスカットなどの果実の省力化や減農薬、持続可能な生産に向けて、様々なアプローチを試みています。

くだものを通して地域を巻き込み、地域と主に命の輪をつなげています。

[長野県上伊那農業高等学校 \(https://jono.ed.jp/\)](https://jono.ed.jp/) ←学校の詳細はこちらから！

【取組の紹介】

シャインマスカットやプルーンの栽培では、袋かけに着目し、袋の色や素材による品質の変化などを研究しています。

リンゴの栽培では、高密植栽培における減農薬や化学肥料の低減にむけて、地元企業の養土藻を活用した研究や、施肥量の違いによる分析などを行っています。また、汚泥肥料やバイオ炭を活用した検証も行っています。

廃棄予定の果実の利活用として、規格外品をドライフルーツ化し、地域の企業と連携した商品開発を行っています。

グループ名

果樹グループ

(長野県上伊那農業高等学校)



プルーンの大きな木に
小さい袋が沢山！

Q1 この取組を始めたきっかけは？

この取組は、部活の一環として取り組んでいて、昨年度の先輩の取組を見て、引き継いでいきたいと思い、始めました。

長野県はあまり知られていませんがプルーンの生産量が日本一なので、長野県の美味しいプルーンを広めていきたいです。



果樹グループの
みなさんに聞きました！



Q2 このプロジェクトの特徴は？

「果樹DGs」の名の通り、様々な果樹の持続可能な栽培を目指しています。

高校生の強みとして、儲けを考える必要がないので、農家の方が手を出しづらいことにも挑戦していきたいと思います。



全てはおいしい
くだもののために！！

Q3 プルーン栽培で印象に残ったことは？

傷のあるプルーンを減らすために2種類の袋をかけて効果の違いを調べています。プルーンはナシやブドウよりも小さいので袋も小さく、作業は大変でした。

収穫はこれからなので味や品質の違いが無いか調べてみたいです。



Q4 今後の活動の抱負や目標は？

傷がついてしまったプルーンやリンゴは地元の企業と連携して、加工品を作っています。

果樹農家数は年々減少傾向にあるので、加工品の開発により、農家の方の収入アップへつなげることで、持続可能な果樹栽培を目指しています。



取材を終えて

2年生の方々が修学旅行で不在のところ、また果樹グループの皆様におかれましては作業途中のところ、取材にご対応いただきありがとうございました。

初めに見せていただいたシャインマスカットの畠では、果皮色の黄化を防ぐため緑色の袋をかけていると盗難の被害に遭いやすいために、別の色で同様の効果が出ないか試験中との事で、とても生産現場に寄り添った試験理由、試験内容で、果樹グループの皆さんだからこそ出来る取組だと感じました。

また、長野県が生産量一位であるプルーンの知名度を上げたいとの事で、プルーンの生産者の方としても心強い取組だと思いました。昨年度は、地元企業と共同で傷ありのプルーンを使ったパウンドケーキを開発されたとの事で、今年度も皆様の自由な発想の商品開発されるのが楽しみです！また、リンゴやマイヤーレモンについても、同様に加工品の開発を考えているとの事で、自然の中で行われる果樹栽培において傷の発生は必ず起こりうるものだと思うので、ぜひとも美味しい加工品を開発いただきたいです！

今回お話を伺った中で、研究機関や生産者の方が手を出しにくい分野に挑戦するということがとても印象に残りました。特に汚泥肥料などは、生産者にとっては風評被害等により手を出しにくいものだと思われますが、今後の持続可能な果樹栽培にとっては、必要な研究だと思います。今後も皆様の強みを活かした研究を期待しています。この度は取材にご協力いただきありがとうございました！

